

農学研究科アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、農学研究科のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、「知識・技能・理解」について、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関するいずれかの高度な専門知識と技術を修得している。また、これらを用いるための高い倫理観を身につけていること、「思考・判断」について、自然と共生する持続可能な社会の構築の観点から、地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関連する諸課題の原因を論理的考察に基づいて説明し、有効な解決策を見出すことができること、「興味・関心・意欲」について、上記の諸課題への関心と身に付けた高度な知識や技能をこれらの解決に役立てたいという意欲をもち、高い倫理性をもって、課題解決のための行動を自律的・継続的にとることができること、「表現」について、高度なプレゼンテーション能力と高いコミュニケーション能力をもち、自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を適切に説明することができること、「主体性・協働性」について、優れた主体性・協働性を発揮し、上記の諸課題を解決することができることを目標としている。学位論文においては、(1) テーマ設定が当該分野の研究領域に属しており、優れた着眼点を備えている。(2) 研究倫理に反することなく、研究計画及びデータや資料の管理方法が妥当である。(3) 主要な先行研究を概観し適切な整理がなされて、内容に論理性があり適切な文章で表現されている。(4) 内容に独自性があり当該分野の学術的発展に寄与でき、発表の質疑応答において質問の意味を理解し的確に答えている、といった基準を定めている。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	研究指導計画書	入学時及び各学年末	全学年	研究題目、研究指導計画、教員コメント	電子媒体	農学研究科教育コーディネーター会議	修士論文の完成度を高めるとともに、学習支援の改善、学習環境及び研究指導の充実に活用
2	農学研究科リサーチ・ループリック	毎年2回 (前・後学期)	全学年	テーマ設定、研究活動の妥当性、研究の内容とその記述、研究成果	電子媒体	農学研究科教育コーディネーター会議	修士論文の完成度を高めるとともに、学習支援の改善、学習環境及び研究指導の充実に活用
3	休退学調査	毎年1回	全学年	休学者数、退学者数	修学支援システム	教育・学生支援機構／各研究科	各研究科が教育学生支援会議に報告し、各研究科の学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
4	修了予定者アンケート	毎年1-3月	2年生	在学中の状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況、トランスファラブルスキル修得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各研究科のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	修了者の進路状況	毎年1回	2年生	修了者の進路（就職率、県内就職率、進学率）、就職支援への評価	修学支援システム	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	修了生調査	毎年1回	修了後3年経過の修了生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各研究科のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	就職先等への意見聴取	3年に1回程度	修了生	愛大コンピテンシーの習得状況	アンケート又はヒアリング	農学研究科自己点検評価委員会	カリキュラム改善、学習支援の改善、自己点検・評価に活用